

numbers of Spermatophytes (1) *Journ. Jap. Bot.* 52(8) : 225-230. —— 1983.
 Notes on chromosome numbers of Spermatophytes (4) *Journ. Jap. Bot.* 58(12) : 353-358. Tanaka, R. 1971. Types of resting nuclei in Orchidaceae *Bot. Mag. (Tokyo)* 84: 118-122. —— 1980. The karyotype. *In Plant genetics I* (Kihara, H. ed.) Shokabo, Tokyo, p. 335-358 (in Japanese).

* * * *

日本産ネコノメソウ節における有毛植物 6 taxa (マルバネコノメソウ, ツクシネコノメソウ, コガネネコノメソウ, シロバナネコノメソウ, ハナネコノメ, キイハナネコノメ) の核形態学的研究を行った。体細胞染色体数は $2n=24$ (5 taxa) と $2n=48$ (1 taxon) であった。本研究により初めて染色体の観察された種はツクシネコノメソウ *C. rhabdospermum* ($2n=24$), ハナネコノメソウ *C. album* var. *stamineum* ($2n=24$), キイハナネコノメ *C. album* var. *nachiense* ($2n=24$) である。コガネネコノメソウ *C. pilosum* var. *sphaerospermum* は今まで $2n=ca\ 72$ (黒沢 1983) が観察されていたが、今回新たに $2n=48$ が観察された。他の 2 taxa (マルバネコノメソウ *C. ramosum*, シロバナネコノメソウ *C. album* var. *album*) は今までの報告 (黒沢 1977, 1983) と一致した。静止期の染色体の形態は 6 taxa ともに単純染色中央粒型であり、静止期におけるそれぞれの taxon の区別はできなかった。分裂期中期染色体は 6 taxa ともに $x=12$ を基本数とするグループであったが、染色体の長さにおいて *C. ramosum* は bimodal, 他の 5 taxa は gradual な変化をしており、核形態学的に大きく 2 グループに分けることができた。

□(財)発酵研究所 (Institute for Fermentation Osaka): *List of cultures*, 8th ed., Vol. 1. 363 pp. 1988. 同研究所(大阪市淀川区十三本町 2-17-85). ¥2800. 國際的にも著名な同研究所の細菌類、バクテリオファージ、真菌類の保存菌株リストである。現在 12,900 株を越える菌株を保存し、形質の変化にも気をくばり、寄託・分譲に応えるのがどれほど大変なことかは想像を越える。研究や産業上の貢献ははかりしれない。深甚の敬意を表したい。巻末の付録に高校課程教材用として 30 菌株が示してあり、安価(1 株 1000 円)に分譲してもらえる。大学教育用にもと思うのは、ムシがよすぎるだろうか。それはともかく、これらの菌株にだけは和名と、できれば簡単な解説・注意などが与えられていれば良かったと思う。Vol. 2 は “animal cell lines” となっている。

(三浦宏一郎)